

くびき野時季キャッチ

活動場所：3年2組教室、原っぱ
 6月4日（火）13：55：～15：00
 提案者：五十嵐 徳也

1 子どもの思いの連続

4月、子どもは活動名を知り、お花見で盛り上がる高田公園に出かけた。桜の美しさや露店の楽しさについて感じたり、お花見を楽しむ人を見たりした子どもは、お花見の魅力について意見を交流した校内の原っぱを中心に活動をしている子どもが「春は学校の中でもたくさん見つかるよ」と話すなど、季節を様々な場所で感じ始めた。植物や生き物を探したりしながら景色の移り変わりを感じ始め、春の中でも微妙な変化が起こっていることに気付き、季節の捉えを新たにした。

4月末、朝市に出かけた子どもは、朝市に並ぶ商品から季節を感じるものとそうでないものがあることに気付いた。とりわけ、春の旬として教えてもらった筍と山菜を味わいたいと願い、調理して食べることにした。あまり食べたことのないふきのとうやたららの芽の天ぷらは、「春の香りがする」と、何個もおぼった。筍は、1日あく抜きをし、翌日に筍ご飯にして食べた。おいしさのあまり、職員に振る舞ったり、おにぎりにしてお家の人へのおみやげとして持って帰ったりした。

5月の連休後、子どもは大淵水と森公園に行き、パークレンジャーと一緒に遊歩道を歩いた。春の植物や生き物について教えてもらった子どもは、何でも知っているパークレンジャーに憧れの気持ちをもち始めるとともに、植物図鑑や昆虫図鑑をつくったり、活動の最中に図鑑を持ち歩いたりするようになった。5月末には、五智公園に行った際にも、森の中に入って草木が伸びていることや緑が多くなっていること、木の実がどんどん増えていることに気付き、季節が春から夏へと移り変わっていくことを感じ取っていた。

2 本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

くびき野時季キャッチアルバムをつくることを通して、キャッチしてきたものをまとめたり、これまでの活動を振り返って表現したり、友だちとくびき野時季キャッチアルバムにつづることについて語り合ったりしながら、自分の活動を見つめ直す。

3 本時の構想

○ 自分だけのくびき野時季キャッチアルバムをつくる

子どもは、これまで押し花や生き物のスケッチ、図鑑などを溜めてきた。本時は、溜めてきたものを綴っていくアルバムを子どもに渡す。これまでの活動を振り返りながら、溜めてきた物を綴ったり、そのときのことを思い出して形にして綴ろうとしたり、記憶にあることを表現して溜めようとするだろう。また、綴りたいことやものをキャッチしに出かけていくことも考えられる。子どもは、アルバムを時季キャッチの活動の軌跡にするとともに、新たな活動へとつなげるコンパスにしていくのである。

4 本時の展開

62・63M/全304M (65分)

時間	番号；子どもの活動 ・；子どもの姿	○；教師の手立て
10	<p>1 これまでの時季の移り変わりについて話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月よりも暑くなり、春はもう過ぎた。 ・雨が多くなってきているから、梅雨になってきている。 ・同じ季節でも、原っぱや公園の様子は変わっている。少しずつ季節が移り変わっている。 	<p>○4月からの原っぱの様子を写した写真を用意し、原っぱの変化について聞く。</p>
35	<p>2 時季キャッチアルバムをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・押し花をアルバムに綴じる。 ・シートを読み直し、絵にしてアルバムに綴じる。 ・スケッチを切り取り、アルバムに入れる。 	<p>○アルバムを配り、アルバムに綴じやすいサイズの厚紙を用意しておく。</p> <p>○綴る際に表現し直してよいことを伝える。</p>
20	<p>3 本時の活動を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートに活動の振り返りを書く。 ・次の活動への思いを書く。 	<p>○次の活動への思いについて書かせる。</p>

